

IV 乳幼児期から中学生を育てる保護者

プログラム名	展開例(ページ)
IV-1 こんな子供に育てほしい	48
IV-2 お子さんが話したくなる聞き方	50
IV-3 子育てストレス発散法	52
IV-4 子育て「気になっていること」ランキング	54
IV-5 ひとりっ子、きょうだいの子育て	56
IV-6 ほっと やすらぎのある家庭生活	58
IV-7 家庭の中での「ヒヤリハット」	60
IV-8 賢い消費者になろう！	62

(4) プログラムの活用方法

プログラムは、家庭教育力向上のために、保護者が集う場で活用することを目的とした教材（プログラム集）です。

保護者が集う場でプログラムを活用したワークショップを実施するためには、ワークショップを円滑に進行するファシリテーターが必要です。ファシリテーターは、場の雰囲気や和ませ、ワークシートを用いた個人およびグループワークの中で、参加者が自分の思いや気持ちを自由に発言できるような環境を整える役割があります。「とくしま親なびプログラム」では、参加した保護者が気付きや学びを得たり、保護者同士が一体感を感じたり、楽しい時間を過ごすナビゲーターとしての役割を担ってほしいという願いをこめて、ファシリテーター役の人を「**親なびゲーター**」と呼びます。県のファシリテーター養成講座を受講した「親なびゲーター」が、ワークショップに出向き、会の運営のお手伝いをいたします。

◆活用場面

活用場面としては、保育所やこども園における保護者懇談会、幼稚園、学校における PTA 研修会や学級学年懇談会、保護者会、入学説明会などで実施することを想定しています。

他にも、乳幼児健診や就学時健診時、公民館・子育て支援センターの講座、企業内研修などでも活用可能です。

さらにアレンジを加えることによって、保護者のみならず、保護者を支える教職員や保育者、地域の人々など活用場面を広げることも可能です。さまざまな年齢の人々の間で、家庭教育を考える教材（プログラム集）として活用してください。